

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム里の家(はまなす)	評価実施年月日	平成20年12月1日
評価実施構成員氏名	hamanasu 村上 貴栄子 岡本 勝子 高橋 留美子 吉田 京子	大中 房江 佐藤 富子 石田 サダ子 長谷川 芳信	
記録者氏名	葛西 保成	記録年月日	平成20年12月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続を支援する為の事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>毎朝の申し送り時、ケアカフェ等で機会ある毎に事例を含め話し合っている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>毎朝の申し送り時、ケアカンファレンス等を通して確認している。</p>	○	<p>毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、また業務中も常に念頭に入れ支援を行なっている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居時に説明をすると共に同意を得ており、壁(玄関等)に掲示している。また、運営推進委員会等でも話しをしている。</p>	○	<p>「里の家だより」をご家族様や市役所等にも配布したり、地域の行事や小学校とも交流している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>日常的に散歩や買い物に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり、定期的に舞踊等慰問ボランティアあり。</p>	○	<p>毎月1回舞踊の慰問ボランティアや小学生の慰問等がある。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の文化発表会や運動会に参加し、また小学校の運動会・卒業式等にも招待され、入居者と一緒に参加している。</p>	○	<p>運動会では入居者様も参加できる競技も考えて頂き、参加している。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>随時地域の方々からの認知症の相談や見学も受け入れている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも行なっている。</p>	○	<p>今後も地域の高齢者等の暮らしに役立つ取り組みを行なって行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また外部評価の結果についても同様である。</p>	○	自己評価を全職員で行なっている。他に、毎月研修と言う形で1項目ずつ再度見直している。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回運営推進委員会を行っており、評価への取組み・状況報告や検討事項、懸案事項について経過報告を合している。</p>	○	今後も継続して行っていく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当窓口には、事ある毎に訪室している。</p>	○	今後更により良い関係が継続し常に協力し合える状態に努めていく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者と一部職員は権利擁護や成年後見制度について、まだ良く理解していない職員もいる。</p>	○	今後、研修等により全職員が理解するように努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>会議にて高齢者虐待防止に関する事を学び、全職員が理解浸透や遵守に向けた取組みを行なっている。</p>	○	高齢者虐待防止に関する資料を全職員に配布し説明している。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居契約時に事業所のケアに関する考え方や取組み、利用料金や起こりうるリスク・医療連携体制・退居を含めた事業所の対応可能な範囲等、十分な時間をとって説明を行なっている。</p>	○	契約時に説明し同意を得ている。また、変更等があった場合もその都度説明し、同意を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし、その時々を利用者の不安や意見等はユニット会議にて話し合い、利用者の意見等を反映させる様に心掛けている。	○	最低毎月3回ユニット会議を行い、その都度話し合っている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月里の家だよりを発行し、送付時に個々に合わせた報告を便りに行っている。また、面会時にも状況報告を行っている。	○	今後も継続して行っていくと共に、面会にあまり来られない入居者のご家族様にも、状態の変化に伴いその都度電話連絡をしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	無記名ノートや苦情受け付け窓口を設置している。ご家族様が参加しやすい様な行事を取り入れ案内している。	○	今後も継続して行っていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ユニット会議や全ホームでの合同会議にて、意見や要望について話しが出来る機会がある。	○	全ての意見が反映されている訳ではないが、必要な事項については検討している。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日中においては入居者様3人に対して職員1名の体制としており、また夜間は1ユニット1名の職員体制として、入居者様の状況・状態に適した支援が出来る体制である。	○	勤務表にてローテーションを組んでいる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者・ご家族様への信頼関係を築く為にも基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。また、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎの面で最善の努力をしている。	○	今後も継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修の受講や内部研修も継続して行っており、毎月資料等を配布し事例研究や研究テーマについて話し合っており、職員一人一人が学習意欲を持ち、学ぶ事に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行っていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内外での連絡会の研修に参加したり、実習生の受け入れにて交流を持つ事により、サービスの質の向上を目指している。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行っていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>各ユニットの会議や3ユニット合同の茶話会等を行なっている。また、職員互助会がある。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行っていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者参加のユニット会等にて意見や要望について話す機会がある。</p>	<p>○</p> <p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、管理者と計画担当者が事前面談で生活状況を把握する様に努め、ご本人様の求めている事や不安を理解す様にしている。</p>	<p>○</p> <p>初期の時点でご本人様に安心して頂く事が重要で、受け入れられる様な関係作りに努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでのご家族様の苦労や今迄のサービスの利用状況等、これまでの経緯について聞き、ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてどの様な対応が出来るか事前に話し合いをしている。</p>	<p>○</p> <p>初期に築いた信頼関係をより深められるよう、今後も密な連絡体制を継続し、本人様の生活風景や職員対応の疑問点等についても伺っていく。また、不安や要望等をプラン内容に反映する事でも信頼関係を深められるよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時にご本人様やご家族様の思い、状況等を確認し改善に向けた支援を提案し、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげる等の対応を行なっている。	○	相談時にはまず、本人様及びご家族様にグループホームが自立支援の場である事の理解を深める事に努めており、それらの理解を元に優先的な支援について希望を聞取っている。今後も対応継続し、必要支援の見極めを行っていく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人様やご家族様に事業所を見学して頂く事から始め、自宅に出向いたりして居られた場合も使い慣れた生活用品や装飾品等を持ち込んで頂いている。	○	入居され馴染まれるまでは面会もなるべく多く来て頂くようにご家族様にお話しをしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の尊厳が守られ、馴染みの関係作りをし落ち着いた生活が出来る様雰囲気作りをする事で喜怒哀楽を共にし、入居者様の得意とする事・好きな事を一緒に行い、教えて頂く場面作りや声掛けを行なっている。	○	実際の関わりの中で、一方的な関係にならない様に日々確認をし、今後も継続して行っていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	電話や面会時等にご本人様の日々の暮らしや出来事等、状況を伝え情報の共有に努め、ご本人様と一緒に支える為にご家族様と同じ様な思いで支援している事を伝えている。	○	今後も情報交換を密に行い継続して行っていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	里の家だよりや電話・面会時等に近況を報告・相談すると共に、行事にも参加して頂く機会を作っている。	○	ご家族様が疎遠だからと諦めず、良い関係を築ける様努め、今後も継続して行っていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた家を見に行き、近所の方と話す機会を作ったり、友人が遊びに来られたりしており、一人一人の生活習慣を尊重している。	○	今後も継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報を連携し、全ての職員が共有しており個別に話しを聞いたり、皆様で楽しく過せる場面作りをする等、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。	○	日々の状態等についても情報を共有し支援している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院で契約が終了しても、受診の際に入居者と一緒にお見舞いに行ったり、また退院後再度入居される等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けている。	○	退居後もご家族様の相談にのる等、今後も継続して行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人様やご家族様から情報を得る様にしており、また日々の関わりの中での声掛け、日々の行動や表情から汲み取り把握に努めている。	○	入居後もご家族様の面談時等に入居者様の状況等を伝え、検討している。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に自宅を訪問したり、入居者様のみならず入居後もご本人・ご家族様・関係者などから情報を得る様になっている。	○	基本情報について、ご家族様にもご協力頂き一部書類に記入して頂く等、今後も継続して行っていく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人一人の生活リズムを理解すると共に、言葉や行動・動作から感じ取りご本人様の全体像を把握している。	○	出来ない事より出来る事に注目し支援を行なっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人様やご家族様には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させる様にしており、またアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行って、介護計画を作成している。	○	入居者様主体の暮らしを反映させる様今後も継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況・効果を評価し、期間が終了する前に見直し、状態が変化した場合には終了する前であっても検討・見直しを行なっている。	○	見直しの際には必ずご本人様やご家族様の要望も取り入れる様になっている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別にファイルを用意し、食事・水分量・身体状況及び日々の暮らしの様子やご本人様の言葉、職員の気づきを記録に記載し職員間の情報共有に徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。	○	今後も継続して行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして利用者にとって負担とならない様、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。	○	入院された際も、早期退院に向けての支援を行う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議にて民生委員の方とお話しをし、また避難訓練等で消防署にも協力を頂いている。	○	地域の小学校とも行事に参加したり、ホームに訪問して頂いたり交流がある。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容サービスを利用したり、また退居される時にも事前に情報提供したりしている。	○	今後も他の利用できるサービスがあれば活用していきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加させて頂いており、これをきっかけに関係が強化された。	○	今後も周辺情報や支援に関する情報交換をし、協力関係を築いて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	事業所の協力医の他、利用者が前からのかかりつけ医で医療を受けたり、ご家族様と協力し通院介助を行ったり、職員が代行している。また、歯科は訪問診療に来て頂くケースもあり複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	○	今後も継続して行っていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	事業所の主治医が精神内科の医師であり、認知症についての指示や助言を頂いている。	○	今後も継続して行っていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が配置されており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえる様にしている。	○	今後も継続して行っていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と話しをする機会をもち、事業所内での対応可能だんかいで、なるべく早く退院できる様対応している。	○	頻繁に見舞う様にしており、またご家族様とも情報交換をしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご本人様やご家族様の意向、ご本人様にとってどうあったら良いのか医師の説明を基にご家族様と話し合い、事業所として対応し得る最大のケアについて説明し、対応を行なっている。	○	状態の変化があるごとに、ご家族様の気持ちの変化やご本人様の思いに注意を払い、支援に繋げている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人様やご家族様の意向を踏まえ、医師・職員・ご家族様と連携を取り利用者が安心して終末期を過ごせる様取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応して頂ける様医療機関とも連携を図り対応している。	○	今後も継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の事業所に移られる場合、これまでの支援状況等を書面にて手渡すと共に、情報交換を行い注意が必要な点についてもきめ細かい連携を心掛けている。	○	今後も継続して行っていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ユニット会議や打ち合わせの折に、職員の意識向上を図ると共に日々のかかわり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	○	今後も継続して行っていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、個々の利用者に合わせた声掛けをし、意思表示が困難な方には、義情を読み取ったり、紙に書いて見て頂いたりしご本人様が決める場所を作っている。	○	今後も継続して行っていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調やその日その時のご本人様の気持ちを尊重し、食事の時間や買い物・散歩等、出来るだけ個別性のある柔軟な支援を行なっている。	○	今後も継続して行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	職員側の価値観や一方的な支援ではなく、個々の生活習慣に合わせた支援をし、理容・美容についても、毎月馴染みの理美容院で希望に合わせたカットや毛染め等をしてもらえる様連携をとっている。	○	今後も継続して行っていく。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	個々の嫌いな物は事前に聞いて提供しない様にし、その日のメニューは利用者と相談して決めたり、利用者の誕生日にはその利用者の好みのメニューを提供している。また、外食等機会も作り好きなメニューを注文して頂いている。	○	入居者の状況に合わせた食事準備や後片付けも支援している。また、ホーム内での食事に、時々バイキング形式も取り入れている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は個々の嗜好物を理解しており、ご本人様の様子や時間を見ながらそれを楽しめる様に支援している。	○	今後も継続して行っていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンや時間・習慣を把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導する等の事で、トイレで排泄出来る様支援している。	○	入居者の状態に合わせ居室ポータブルトイレを設置したり、また一人一人のサインを把握し、さり気なく誘導支援を行なっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴曜日は目安として決まっているが、その日の体調に合わせてその他の曜日でも入浴して頂いている。	○	入浴したくない利用者には声掛け等で成功した例を共有し活用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣や生活リズムを把握し、ゆっくりと休息が取れる様に支援し、また夕方から穏やかに過ぎて頂く様に取り組み、就寝に向けてリズムが安定する様に工夫している。	○	寝付けないう時には温かい飲み物を飲みながら会話をする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事準備や洗濯物たたみ等、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝える様にしている。	○	地域の行事に参加したり、ホームの行事等利用者と相談しながら行なっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の協力を得て少額のお金をお持ちの方もいる。またご家族様よりお金を預かり、事業所が管理している方でお金に関する訴えがあった場合は、事務所の担当者より通帳を見せてもらったり、お金をもらったりする等支援している。	○	今後も継続して行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>天気やご本人様の気分や希望に応じて、心身の活性に繋がる様日常的に散歩・ドライブやお弁当を持って出掛けたり、外食し季節を肌で感じて頂ける様支援を行なっている。</p>	○	今後も継続して行っていく。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>日常的な外出支援とは別に、個人的に以前住んでいた家を見に行ったり外食したり等、個別対応を行なっている。</p>	○	今後も継続して行っていく。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p> <p>利用者の希望に応じて日常的に電話等出来る様支援している。</p>	○	年に一度の年賀状を出す為の支援も行っている。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>ご家族様にも親の家を訪れる様な、気軽で来やすい雰囲気作りを心掛け、訪問時間などは定めておらず仕事帰りやご家族様の都合の良い時間帯にいつでも訪ねて来て頂ける様な配慮をしている。</p>	○	訪問時には居室にてお茶等を提供し、入居者の近況についてもお話ししている。
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>高齢者の権利・擁護や身体拘束に関する事を会議等で資料を配布し、職員の共有確認を図っている。</p>	○	今後も継続して行っていく。
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>通常玄関は施錠(自動ドアで外からは入って来られる)しており、職員が解除しなければ開かない仕組みとなっている。しかし一部の利用者は自分で開け、玄関に出て外の空気を吸う等自由に行っている。</p>	○	ご家族様には施錠する理由を話し、理解して頂いている。ユニット内の会議でも、鍵をかけない実践について話し合っており、今後は解除し利用者が自由に行動出来る様に配慮して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さり気なく全員の状況を把握する様努めている。夜間は30分または1時間毎に利用者の様子を確認すると共に、居室が見通せる場所で休むなど24時間利用者の安全に配慮している。	○	今後も継続して行っていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除く様なことはなく、利用者の状況変化によって注意を促していくなどケースに応じた対応を行なっている。	○	今後も継続して行っていく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態から予測される危険を検討し職員の共有認識を図っている。また、万が一事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族様への説明と報告を行なっている。	○	各マニュアルを整備し周知徹底を図っている。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応出来る様にしている。	○	緊急時対応について、各マニュアルを整備し周知徹底を図っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。	○	今後も継続して行っていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	自由は暮らしの大切さと事業所の取組みを丁寧に説明し、理解を得られる様に努めている。	○	入居者様の状態の変化についてもその都度説明し、リスクについても説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は普段の状況を把握しており、食欲や様子等の変化が見られた時はバイタルチェックを行ない、変化時の記録を付け管理者に報告すると共に職員間で共有し、状況により医療受診に繋げている。	○	今後も継続して行っていく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の処方箋を一人一人毎に整理し、職員が内容を把握出来る様にしている。服薬時には顔・薬の氏名・日時を声を出し確認し服用して頂き、最後まで服用できたか確認する。	○	処方の変化時も必ず送りし、ご本人様の状態変化が見られた時にも医療機関との連携を図っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックをし、食事・水分等に配慮し運動の働きかけをする等、個々に働きかけをしている。	○	今後も継続して行っていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いをし、バイタルサイン・入浴時・日常生活を通して観察し、働きかけや支援を行なっている。	○	今後も継続して行っていく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎回チェック表に記録し、大まかに栄養摂取量を把握し職員が情報を共有している。	○	今後も継続して行っていく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策に努めている。また、利用者及びご家族様に同意を頂きインフルエンザ予防接種を受けている。	○	今後も継続して行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾等は毎晩漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検・清掃をし、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。	○	賞味期限も必ずチェックし古いものから使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気の原価になる様に玄関先にプランターを置いたり、ベンチを置いて庭先でお茶を飲んだりするスペースを造っている。	○	今後も継続して行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングを日常的に花や季節を飾り、また季節の行事毎の飾りをし旬の食材を作り、季節に合った食事提供する等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫を行なっている。	○	共有空間では職員間の会話のトーンは勿論、テレビ等のトーンにも配慮し、日差し等についてもブラインド等で調整している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや小さなテーブルを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。	○	今後も継続して行っていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様やご家族様と相談しながら使い慣れた生活用品・装飾品等が持ち込まれており、その他利用者のADLに合わせたポータブルトイレ・ベット等を整えている。	○	入居者様の状態の変化に合わせ、その都度配慮もしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に空気清浄に心掛け、居室も定期的に巡回し換気・空調の調節に配慮している。また、毎日の掃除の時窓の開閉による換気、温度にも配慮している。	○	トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	利用者の状態に合わせて手すり等、居住環境が適しているかを見直し安全確保と自立への配慮の為、随時本部と検討し備えている。	○	今後更に利用者の状態に合わせて不便を感じた際、随時対応して行く。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の状態に合わせ環境整備に努めており、状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合はその都度話し合い、ご本人様の不安材料を取り除き、力を取り戻せる様試みている。	○	今後も継続して行っていく。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先にベンチを置いて利用者が涼んだり、日光浴が出来る様な工夫をしている。畑やプランターに花等を植え、利用者が日常的に楽しみながら活動出来る様な環境を作っている。	○	今後も継続して行っていく。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)